

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「社会教育施設へ行こう」 教材名「社会教育施設へ行こう」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。思考・判断・表現では、社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する。交流や試行の前後を比べ、施設と資料の活用計画を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。（〔知識及び技能〕(3)オ）	①「読むこと」において、社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画している。（C(1)力）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、目的に合う施設と資料の活用を中心に学ぶ。社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(3)オとC(1)力に関係する学習である。公式単元一覧では知識事項が中心であるが、本案では言葉を使って見直す活動に関わるC(1)力を関連事項として加えた。成果は、施設と資料の活用計画に示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、施設名だけで調べられる内容を決めることである。公式案内や蔵書検索を使い、利用条件と資料の範囲を確かめる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する。 ○この施設ではどんな資料を確かめられるかを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、施設と資料の活用計画を見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）



6 本時の指導 (1/2)

(1) 本時の目標

社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「この施設ではどんな資料を確認められるか」 【めあて】目的に合う施設と資料の活用について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じテーマでも施設によって得られる情報が違う。 ・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。施設名だけで調べられる内容を決める姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画する。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「この施設ではどんな資料を確認められるか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じテーマでも施設によって得られる情報が違う。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	公式案内や蔵書検索を使い、利用条件と資料の範囲を確認める。知識・技能では、読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画している。(C(1)力) (本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 施設と資料の活用計画を確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】本は題名や紹介、内容を確認めて選ぶことで、自分の関心や読む目的と結び付く。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。この施設ではどんな資料を確認められるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①(施設と資料の活用計画と実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、社会教育施設で得られる資料を調べ、学習目的に合う使い方を計画している姿である。本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明を基に判断する。施設名だけで調べられる内容を決める場合は、公式案内や蔵書検索を使い、利用条件と資料の範囲を確認める。読み書き

の速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には目的に合う施設と資料の活用を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に施設と資料の活用計画で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

